

株式会社小田原魚市場

○現在実施している又は今後実施予定の取組

小田原は豊かな水産資源に恵まれた相模湾の奥座敷として知られ、東海道の要衝でもあり、かつて城下町として栄えました。この歴史的背景の下、小田原の漁業は発展し、全国的に見ても非常に早い段階で魚市場としての機能が確立されてきました。

現在、小田原魚市場では、地元漁協による定置網や刺し網を用いた漁獲物を主に取り扱い、その他にも近隣（相模湾～伊豆半島）の定置網や釣り漁業、素潜り漁による魚介類も広く集荷しています。市場には仲卸業者や地元の魚商、量販店のバイヤー、そして「ひもの」や「蒲鉾」を製造する業者が集まり、日々活発な取引が行われています。地元の消費者に加え、県央や首都圏からの需要にも応えつつ、小田原地魚の知名度向上と魚市場の販売網の拡大に努め、地域経済の活性化にも大きく貢献しています。

その中で近年、急速に進む魚商の高齢化や魚食の衰退、さらに温暖化などの環境変動による地魚の減少など、多くのマイナス要因が直接的に業績に影響してくる中で、小田原魚市場としては、持続可能な漁業と地域経済の発展を目指して「SDGs」への取り組みを強化しています。

以下の項目を主な推進課題として取り組んでおります。



1，安定供給による市場の安定化

小田原の定置網漁は環境に優しく、魚を過剰に獲ることなく、年間を通して多様な漁獲が可能な持続可能な漁業と評価されています。しかしながら、天然魚は天候や潮流などの自然条件に左右されるため、安定供給のためには広範囲にわたる集荷や養殖魚の活用が必要と考え、それらの供給を通じ、定置網漁の不安定さを補い、市場全体の取扱量の安定化に努めています。

2，多様な魚種の取り扱い

定置網は「待ちの漁業」とも言われ、獲れる魚を選べない一方で、季節感あふれる魚が多く獲れることが強みです。近隣の釣り漁船や未利用魚を含む多様な魚種を広く取り扱うことで、市場の満足度を高め、新たな需要を創出し、地魚の価値を高めています。

3，地域ブランドの強化

「小田原のマアジ」や「小田原のイシダイ」など、相模湾の魚を地域ブランドとして位置づけることで、消費者の認知度を高め、地域の特産品としての価値をさらに高めています。

4，持続可能性の向上

定置網漁に加え、釣り漁業や養殖魚を活用することで、取扱量の安定化を図り、地域経済の持続可能な発展を目指しています。また廃棄物の削減やアップサイクルの推進を通じて、地域資源の有効活用にも努めています。

5，観光との連携

地魚を活用した観光ビジネスとの連携を図り、市場見学や料理教室や給食への地魚提供、「みなとまつり」などの地域イベントと連動することで、地域全体の経済効果を高めています。

6，小田原水産物の知名度向上

小田原産地魚の新鮮な情報と日々の水揚げ実績をブログにて広報する事で、日々のデータの記録と蓄積を行っています。それらを活用しつつ、相模湾の水産資源とその持続可能性を広く啓発し、全国の水産研究者とも協力しながら、小田原の水産業のさらなる発展に向けた取り組みを続けています。

URL：<http://uoichiba.seesaa.net/>